

1級建築士の学科講座

1. 学科講座の構成

2022年1月から学科講座は、下記6章からの構成となります。

この中で最も重要な資料は、「3章 過去問20年の項目別一覧表」となります。法規のみは、最も効率よく合格するための法規25点合格法ができるように「5章 法規Ⅲの出題法文一覧表」があります。この中に、法文が数秒で引くことができるようになる法令集マーカーの仕方等もあります。

- 1章 学科試験の現状把握
- 2章 5科目の項目別一覧表
- 3章 過去問20年の項目別一覧表
- 4章 年度別の問題と解答
- 5章 法規Ⅲの出題法文一覧表
- 6章 模擬試験

2. 学科試験に合格するためには

学科試験は、過去問20年をしっかりと学習すれば、独学で必ず合格できます(10年では傾向分析等できず20年必要)。しかし、この過去問20年は膨大な量になるので、限られた時間で効率よく学習するには、「3章 過去問20年の項目別一覧表」をお勧めします。1項目(1問出題)の表は、A3伴2枚にまとめているので、この2枚を机に置いて見比べると、一目瞭然と出題傾向が把握できます(下表参照)。

なお、学科講座の「3章 過去問20年の項目別一覧表」と、「音声ポイント講座」および「学科YouTube講座」を学習すれば、学科は、確実に独学で合格できます。

3章 過去問20年の項目別一覧表 (一例)

※下表のパターンで5科目全項目あり

項目	出題年度	問題番号			
5. 防火(1)	【 II 環境・設備：過去問20年の類似項目別による出題問題一覧表】				
平成13年度 問題7	平成18年度 問題8	平成21年度 問題5	平成22年度 問題5	平成23年度 問題5	
建築物の防火に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。	防火計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。	建築物における防火・防炎に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。	建築物における防火・防炎に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。	建築物における防火・防炎に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。	建築物における防火・防炎に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。
1 多数の人が集まる同一方向に、同時に避難するおそれのある階層の避難経路は、約1.5m以上確保する必要がある。	1 避難の人の移動を同一方向に、同時に避難するおそれのある階層の避難経路は、一般に、約1.5m以上確保する必要がある。	1 防火区画から防火区画へ突出した壁の水平方向の移動速度は、一般に、6.5-10m/sである。	1 防火区画から防火区画に侵入した煙は、直上層まで煙が侵入する傾向がある。	1 材料を加熱した場合、約200℃に達すると引火し、約400℃に達すると自然発火する。	1 材料を加熱した場合、約200℃に達すると引火し、約400℃に達すると自然発火する。
2 避難経路は、煙が発生した場合、建築物の層間の避難が安全に行われることを確保する必要がある。	2 避難経路は、煙が発生した場合、建築物の層間の避難が安全に行われることを確保する必要がある。	2 煙の発生は、煙長の意に沿って噴出する火災が外壁から漏れにくく、上層への煙の侵入が抑制される。	2 煙の発生は、煙長の意に沿って噴出する火災が外壁から漏れにくく、上層への煙の侵入が抑制される。	2 避難経路は、煙が発生した場合、建築物の層間の避難が安全に行われることを確保する必要がある。	2 避難経路は、煙が発生した場合、建築物の層間の避難が安全に行われることを確保する必要がある。
3 煙の発生は、煙長の意に沿って噴出する火災が外壁から漏れにくく、上層への煙の侵入が抑制される。	3 煙の発生は、煙長の意に沿って噴出する火災が外壁から漏れにくく、上層への煙の侵入が抑制される。	3 住宅用エレベーターは、災害時における避難経路等を目的として設けられる。	3 避難経路の設計においては、「自然発火する状態を避けて逃げようとする」、「煙の侵入を抑制する方向へ逃げようとする」等の避難行動特性を有効に計画することが望ましい。	3 避難経路は、煙が発生した場合、建築物の層間の避難が安全に行われることを確保する必要がある。	3 避難経路は、煙が発生した場合、建築物の層間の避難が安全に行われることを確保する必要がある。
4 煙から避難経路への出入は、その避難人にも考慮される。	4 住宅用エレベーターは、災害時における避難経路等を目的として設けられる。	4 住宅用エレベーターは、災害時における避難経路等を目的として設けられる。	4 避難経路の設計においては、「自然発火する状態を避けて逃げようとする」、「煙の侵入を抑制する方向へ逃げようとする」等の避難行動特性を有効に計画することが望ましい。	4 避難経路は、煙が発生した場合、建築物の層間の避難が安全に行われることを確保する必要がある。	4 避難経路は、煙が発生した場合、建築物の層間の避難が安全に行われることを確保する必要がある。
6 火災発生において、避難と避難が1.5m以上確保されるため、緊急やむを得ない状況に陥った時、避難経路は、避難経路に十分な余裕を確保し、避難経路の確保に留意する必要がある。	6 住宅用エレベーターは、災害時における避難経路等を目的として設けられる。	6 住宅用エレベーターは、災害時における避難経路等を目的として設けられる。	6 避難経路の設計においては、「自然発火する状態を避けて逃げようとする」、「煙の侵入を抑制する方向へ逃げようとする」等の避難行動特性を有効に計画することが望ましい。	6 避難経路は、煙が発生した場合、建築物の層間の避難が安全に行われることを確保する必要がある。	6 避難経路は、煙が発生した場合、建築物の層間の避難が安全に行われることを確保する必要がある。
解答 (正解肢3)	解答 (正解肢3)	解答 (正解肢2)	(正解肢1)	解答 (正解肢4)	
1	1	1	A	1	
2	2	2	B	2	
3	3	3	C	3	
4	4	4	D	4	
6	6	6	E	6	
平成24年度 問題5	平成25年度 問題5	平成26年度 問題5	平成27年度 問題5	平成28年度 問題5	
建築物の防火に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。	建築物の防火に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。	建築物における防火・防炎に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。	建築物における防火・防炎に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。	建築物における防火・防炎に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。	建築物における防火・防炎に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。
1 避難経路の上層への避難経路は、天井・天井裏に十分な余裕を確保する必要があり、天井裏に十分な余裕を確保する必要がある。	1 避難経路の上層への避難経路は、天井・天井裏に十分な余裕を確保する必要があり、天井裏に十分な余裕を確保する必要がある。	1 天井・壁等の内部材料を不燃化するとは、火災時にフラッシュオーバーに起因する熱放射を低減する効果がある。	1 住宅用エレベーターは、災害時における避難経路等を目的として設けられる。	1 水消滅方式は、一つの階を複数のゾーン(防火区画や防煙区画)に区画し、火災の発生時に、火災の発生しているゾーンに水が自動的に噴射することによって安全を確保する方法である。	1 水消滅方式は、一つの階を複数のゾーン(防火区画や防煙区画)に区画し、火災の発生時に、火災の発生しているゾーンに水が自動的に噴射することによって安全を確保する方法である。
2 避難経路は、煙が発生した場合、建築物の層間の避難が安全に行われることを確保する必要がある。	2 避難経路は、煙が発生した場合、建築物の層間の避難が安全に行われることを確保する必要がある。	2 煙の発生は、煙長の意に沿って噴出する火災が外壁から漏れにくく、上層への煙の侵入が抑制される。	2 煙の発生は、煙長の意に沿って噴出する火災が外壁から漏れにくく、上層への煙の侵入が抑制される。	2 避難経路は、煙が発生した場合、建築物の層間の避難が安全に行われることを確保する必要がある。	2 避難経路は、煙が発生した場合、建築物の層間の避難が安全に行われることを確保する必要がある。
3 避難経路は、煙が発生した場合、建築物の層間の避難が安全に行われることを確保する必要がある。	3 避難経路は、煙が発生した場合、建築物の層間の避難が安全に行われることを確保する必要がある。	3 避難経路の設計においては、「自然発火する状態を避けて逃げようとする」、「煙の侵入を抑制する方向へ逃げようとする」等の避難行動特性を有効に計画することが望ましい。	3 避難経路の設計においては、「自然発火する状態を避けて逃げようとする」、「煙の侵入を抑制する方向へ逃げようとする」等の避難行動特性を有効に計画することが望ましい。	3 避難経路は、煙が発生した場合、建築物の層間の避難が安全に行われることを確保する必要がある。	3 避難経路は、煙が発生した場合、建築物の層間の避難が安全に行われることを確保する必要がある。
4 避難経路は、煙が発生した場合、建築物の層間の避難が安全に行われることを確保する必要がある。	4 避難経路は、煙が発生した場合、建築物の層間の避難が安全に行われることを確保する必要がある。	4 避難経路の設計においては、「自然発火する状態を避けて逃げようとする」、「煙の侵入を抑制する方向へ逃げようとする」等の避難行動特性を有効に計画することが望ましい。	4 避難経路の設計においては、「自然発火する状態を避けて逃げようとする」、「煙の侵入を抑制する方向へ逃げようとする」等の避難行動特性を有効に計画することが望ましい。	4 避難経路は、煙が発生した場合、建築物の層間の避難が安全に行われることを確保する必要がある。	4 避難経路は、煙が発生した場合、建築物の層間の避難が安全に行われることを確保する必要がある。
解答 (正解肢4)	解答 (正解肢2)	解答 (正解肢4)	解答 (正解肢4)	解答 (正解肢3)	
1	1	1	1	1	
2	2	2	2	2	
3	3	3	3	3	
4	4	4	4	4	

類似問題は同じ色で分けている。
(H28は全問が類似問題であった。)